

目で

1

しのび寄つて来て
くりかへし くりかへし
僕のくるぶしを海がなめてゐた

波がしづかにしのび寄つて来た
波と思つたのは 小さい無数の釘であつた
小型のビヤ樽のやうな釘の箱からこぼれ出る無数の釘のやうに
いっぱい光りながら
金属的な音をたてて
それは 崩れては また……

2

湾曲してゐる海岸線にそつて歩いて行くと
赤茶けた一団の岩のあひだから顔を出した男がゐた
その男の全身が現はれた
顔と思つたのは僕たちが釘の頭とよんでゐる平たい部分であり

全身と思つたのは……
つまり彼は釘だつた

うなだれてゐると思つたのは……
つまり 彼は打ちそこなつて駄目になつた釘だつた

でも 彼の全身は
真新しくて ぴかぴかしてゐた

僕と同じ背丈だつたから
彼はずるぶん大きい釘だつた

3

水平線は ぴいんと 張りつめてゐた
空は青く澄みきつてゐた

巨大な一本の釘が水平線に支へられて横たはつてゐた
僕の方から見てみると
それは やがて 水平線を離れて持ちあがつた

僕の心の中に疑念が沸いた
あれはどうなるのだろうか

空間を横切つて 長大な釘は
ずつしりと 鉄色をして うかんでゐた